

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
1 生徒の学習意欲を高める授業を 実践し、確かな学力を身に付けさせるとともに、表現する力・伝える力を育成する。	① 生徒の授業に取り組む姿勢を改善する事により、主体性を引き出し、学力の向上につなげる。	授業に主体的に取り組めたと感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：A 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体81% 1年84% 2年77% 3年83%	前後期ともに80%を維持することが出来た。(前期80%、昨年度76%)、前期は1年生に引張られたが、後期は2・3年生が微増となった。検定取得を中心に目的を持って学習する姿勢は作れてきた。各教科・科目全体の学習に繋げたい。
	② 対話的な学習を通して知識を相互に関連付け、より深く学習することが可能となる授業を推進する。	対話を通して思考を深める授業を実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：A 後期教職員を対象としたアンケート結果 全体81%	教員が生徒に一方的に教え込む学習形態からの脱却は少しずつ進んでいるが、後期は検定試験が多い時期であることから教え込み型の授業が多くなった。生徒が主体となる授業の実践はまだまだ個人差が大きい。
	③ 授業を中心に、学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を育成する。	授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：D 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体57% 1年54% 2年49% 3年68%	後期は学校全体で57%とやや微増となったが、低い数値に終わった。学年が上がるにつれ専門科目(実習)が多くなるため、3年生については実感する生徒が多くなっている。この形を学年全体に広げていかなければならない。
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 180人以上である B 160人以上である C 140人以上である D 140人未満である	評価：C 140人	全商検定1級の取得は、本校の大きな学習目標の一つであるが、ここ数年の取得人数は下降気味である(昨年152名)。個々の検定が難易度を増していることもあり抜本的な対策が必要である。
	⑤ 家庭学習(学校での課外学習含む)と授業の連携を図り、学習習慣の確立と学力の向上を目指す。	家庭学習(学校での課外学習含む)平均1時間以上である生徒が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：D 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体19% 1年25% 2年13% 3年17%	検定前の時期や考査前については生徒も良く勉強するが、日常的にはまだまだである。家庭学習の定着に向け、学校全体で取り組む必要がある。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校時代の海外での体験は、学習を行ううえでの大きな動機づけとなる。今後もシンガポールやハワイ等との交流を続けるとよい。 ・ 検定試験など具体的な目標があると生徒も頑張れるのではないか。 			
学校評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、海外との交流や検定資格の取得を推進していく。 			

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標+B44:L72	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
2	① 相手の目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	年間を通して相手の目を見たさわやかな持ちのこもった挨拶ができたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体89% 1年89% 2年87% 3年92%	90%前後であるので、全体的には良好と捉えることができる。ただ、挨拶については明らかにここ3年、内容が低下しており、さらなるてこ入れが必要である。
	② 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 130日以上である B 110日以上である C 80日以上である D 80日未満である	2学期末 108日	今年度は3月1日で学校が終了となったため、量的な評価はできないが、2学期末の遅刻ゼロの日は、昨年とほぼ同じペース(+2日)となっていたため、最終的には昨年同様の結果が予想されていた。
	③ 商業教育実践の貴重な場となっている金商デパートの運営に積極的に取り組む。	金商デパートにおいて、商業で学んだ知識や技術を生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体92% 1年 未実施 2年 90% 3年 95%	金商デパートの店長など指示をする立場に立つことが多い3年生の評価は高い。本校としては、商業教育で学んだ学習内容を実践する貴重な教育の場となっている。
	④ 英語のコミュニケーション能力と活用力の向上に取り組む。	STEP英検準2級（またはそれと同等の資格）以上を取得した人数が前年比、 A 30%以上向上した B 10%以上向上した C 前年度と同等である。 D 前年度を下回った	評価：C (第2回まで) 令和元年度 2級8名、準2級5名 計 13名 平成30年度（同時期） 2級6名、準2級7名 計 13名	準2級以上の人数については、現時点では昨年と同じであるが、2級については、一昨年の1名、昨年の6名から少しずつ進展している。今後の大学入試やグローバル社会の進展に向け、文系の専門高校としてさらに力を入れていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 挨拶について、学校側の自己評価は下がっているとのことだが、近隣の者としては、挨拶等はよいと感じている。 金商デパートでは、販売商品の原価意識をもっと持たせると、より有効な実習となるのではないかと。 		
学校評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> 企業と連携して、商品の原価について学習する場をもっとつくっていく。 		

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果 3年94%	進路実現がスムーズに達成されたためか、前期の82%から大きく向上した。 生徒の多様なニーズに応えながら、適切な情報提供を行い、希望にかなった進路実現の割合を増やしていきたい。
	② 進学希望者に対して、補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を早期より高める。	進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組み、学力を向上させることができたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：D 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体65% 2年49% 3年84%	後期は、前期の全体（58%）よりやや向上はしているが、全体として低い数値に終わった。2年生は毎年低い数値ではあるが（昨年度53%）、50%を割る結果となった。大学入試の内容が大きく変わりつつあり、正確な情報を適時生徒に伝え、変化に対応し、適切に指導していくことが必要である。進路ガイダンスについては、生徒の将来を見据え、さらなる改善が必要である。
	③ 1年生に対して進路ガイダンスを計画的に行い、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果 1年77%	今のカリキュラムも4年目に入り、コース選択の指導も定着してきた。特にカレッジコースの特徴をうまく伝え、有効な進学指導ができるよう考えていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・さまざまな商習慣のなかで事務処理等を行っていくうえで、基礎基本がしっかりしている金商生のアドバンテージは高い。進路選択を行ううえでも、商業高校の強みを活かしていくとよい。		
学校評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・キャリア教育と連動した教科指導を、より一層推進していく。		

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 4

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価：A	県総体等では男・女バレーボール、少林寺拳法、ソフトテニス、女子バスケットボール、バドミントン、ハンドボール、野球部がベスト4以上であった。北信越大会3位のチアリーディング部、を含めると9部となる。
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝のべ4競技以上を目指す。	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ5競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価：A	県高文連商業部大会では、珠算競技・電卓競技・ワープロ競技、簿記競技、情報処理競技が団体優勝した。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：C 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体68% 1年71% 2年72% 3年61%	全体としてここ3年間微減となっている。特に進路選択を踏まえた3年生のてこ入れが必要である。ボランティア委員会や部活動など組織的な活動を中心として活性化をしていきたい。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体96% 1年生96% 2年生94% 3年生96%	清掃やゴミ収集の分別等については昨年度より向上しており概ね満足できる。ただ、学務員さんや一部部活動の清掃による美化に頼っている面も見られた。掃除の大切さを今後も啓発していきたい。
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起こさない学校づくりに努める。	いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：A 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体94%	昨年度に続き年度当初、クラスの和を向上させるため人間関係作りのワークショップを実施した。いじめに対する教職員の意識は高いが、未然防止に向け、今後も学年、各課が連携した対応策を改善しながら努力していく必要がある。
5 教職員の多忙化改善に向けて、業務の改善に取り組む。	働き方改革の主旨に則り、業務改善に努め、教職員の残業時間の解消に繋げる。	年間を平均して、1月当たり80時間以上を超える残業を行っている教員の人数が A 0人ある B 1人である C 2人である D 3人以上いる	評価：D 4～2月 計 11人 平均 1人	後期の残業時間は比較的低く抑えることが出来たが、全体としては100時間を超える教職員が2名出てしまっている。部活動や分掌の時間の使い方の改善を進めていかなければならない。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動が学校の活性化に大きく貢献していると感じている。地域の祭などへの参加も続けてほしい。 ・民間の働き方改革については(特に時間)、厳しいペナルティがあるのでかなり定着してきている。 		
学校評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も商業高校活性化の一つとして部活動の活性化を進めていく。また、地元地域と話し合いながら交流を深めていく。 ・民間企業の取組事例も参考にしながら、本校としての働き方改革の在り方を考えていく。 		